

新規事業計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人陽彩こころの会
施設名	鳩ヶ谷キッズランド
報告者（役職）	森寺 恵理（施設長）
住所・連絡先	埼玉県川口市坂下町1丁目14-17
	☎ 048-286-0116 E-mail info@hiirkokoro.com

○タイトル（事業計画）

～世界が広がる～ 陽彩のたまてばこ

○主な助成備品

プロジェクター

1. 保育計画策定の目的

開園から5年目を迎え、地域に支えられ、鳩ヶ谷キッズランドも愛される保育園になるよう日々務めております。

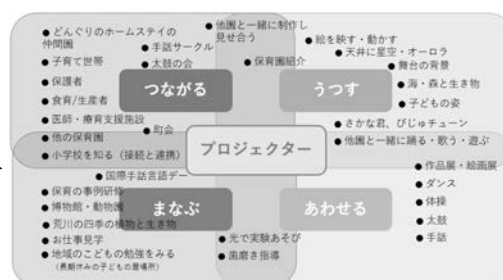
今回助成金を受けて導入したプロジェクターは、大画面で映像を映し出し、設置場所が自由で、スペースが節約でき、スマホやタブレットの映像も投影できます。

海も森もない川口市に住む当園の子どもたちは、まだ見たことのない海や森へ憧れを抱いています。また、絵本や図鑑に出てくる生き物が大好きです。子どもたちの知りたい・調べる・観たい（＝『発見』）という欲求活動をかなえ、その発見を子どもたち・保護者・地域の方とで共有できる（＝『感動』）プロジェクターは、まるで玉手箱です。

そのような認識に立ち、当園の保育理念『いつも発見、もっと感動、生きる力を育む保育』にとって、プロジェクターは今後の保育活動に欠かせないと考え保育計画を策定しました。

2. 具体的な実施内容

保育においてプロジェクターを導入するにあたり、職員とどんなことができるか、何を子どもたちに見せてあげたいか、計画案を出し合いました。その結果、右図のようにプロジェクターの持つ役割が「うつす・あわせる・まなぶ・つながる」の4つあることに気づき、計画を立てることができました。



毎週いろいろな活用をしています。以下に、その実践例をいくつかご紹介します。

『うつす』活動

- ① 発表会など練習の振り返り：練習の様子を見て
「ここは良かった」「声が小さいね」など客観的に気づくことができ、「次はこうしよう」と話し合い、次の練習に活かしていました。
行事を通じて子どもたちは協力し合い、友達との関係を深めることができました。

（社会性の発達）

季節の行事や地域の伝統行事の導入：子どもたちは自分たちの文化について学ぶことができます。（文化の理解促進と多様な経験）



- ② 絵本読み聞かせ：毎日の異なるテーマの絵本の読み聞かせで、壁に絵を映し出すと、離れて座っている子どもも絵を見ることができ、興味を引き出します。（学びの時間）
保育者が作った絵本を一緒に見ました。
登場人物は、園の保育者と子どもたちです。
自分たちが描かれた絵本で主役体験ができました。いつしか物語に引き込まれるように、全員で応援する姿も見られ、一体感と協調性を育みました。（グループ活動）



- ③ 天井に星空、壁に花火：午睡時、コットに横になり、天井に映し出された星空を見ながら仰向けにゆっくり眠りにつくことができました。
また、保育者が撮影してきた花火大会の様子を壁に映して、花火大会を味わう体験もできました。（自然や四季を感じる）



『あわせる』活動

- ① 一緒に踊る：写真は後日、(アクションヒーローと一緒に)踊ることとなり、その日のために踊りを覚えている風景です。振り付けを覚えようと真剣に映像を見ている子ども、一緒に合わせ身体を動かしてみる子ども。どの子どもも感覚を研ぎ澄まして一生懸命に参加しています。他、グループ園の子どもたちと、映像を通して一緒に踊る活動などできます。(身体を動かす活動)



『まなぶ』活動

- ① 園にいる生き物：ゆずの木で生まれたアゲハ蝶などの昆虫。子どもたちと一緒に昆虫について話し合い、絵を描く活動につなげました。

園庭に落ちていた大きな蜂：映し出して調べるとオオスズメバチの雄だとわかりました。季節が冬に向かうこの時期、巣を守る役割を終えた雄は巣を出て飛び続け、寒さの中、



絶命したものだとなりました。雄は針を持たず、人を刺さないことも新しい気づきです。子どもたちは、映像で細かいところも観察し、目の前にいる動かなくなったオオスズメバチにも「頑張ったんだね」と温かい言葉をかけたり、恐る恐る眺めたり、「本当に針ない？」とお尻を押してみたりと、映像と実物に向き合うことで知識を深め、興味深く観察し、小さな命の終わりを受け止めることができました。(学びの活動)

『つながる』活動

- ① 会議・研修：離れた園の保育者などと参加者を映し出しながら会議をしました。全員が同じ場所にいるような一体感が生まれ、コミュニケーションがスムーズになりました。また、移動の時間が必要ないため、開催時間が調整しやすい利点もあります。



- ② 生産者とつながる：食育の一環で、牛乳の生産者につながるプログラムをしました。岩手の広大な山の放牧地とつながり、映し出された牛の姿と牛乳が出来るまでを学びました。休憩中に、たった今生まれた仔牛が立ち上がろうとしているところを、母牛が身体をなめて励ましている様子を見せてもらい、「頑張って立とうとしてる！すごいね」



「ママ牛が赤ちゃん守っているんだね」「優しいね」と純粋な言葉で言い表し、子ども



たちも心温かく見守っていました。生産者の方との質疑応答も、映像を通して子どもたち自身で聞くこともできました。山の中で自由に飼育されている牛への質問は「冬は何を食べているの?」「寒くないの?」生産者と発言する子どもの言葉に集中して聞き、自然環境に対する理解も深めていました。(広い視野の育成)

- ③ 避難訓練：不審者対応の実地演習をしました。役割分担をして演じている様子を映像で確認することで、演習をプロジェクターで見ながらフィードバックを行うことで、全体でリアルな体験を共有し、実際の行動を客観的に評価することができ、改善すべき点を具体的に把握できます。



3. その成果と評価

プロジェクターの導入によって園にもたらされた影響は、以下のとおりです。

① 子どもたちへの影響

多様な教材の利用：プロジェクターを使うことで、子どもたちは映像、写真、絵本など多様な教材に触れる機会が増え、学習体験が豊かになりました。
デジタルリテラシーの向上：プロジェクターを通じてデジタル技術に触れることで、子どもたちのデジタルリテラシーが向上し、現代社会で必要なスキ

ルを身につける手助けとなりました。

異文化理解の促進：知らない地域の映像や情報をプロジェクターで共有することで、異文化への理解や興味が深まり、広い視野を持つきっかけとなりました。

感情表現の発達：絵本などの視覚的な物語などを通して、子どもたちは感情を理解し、自分の気持ちを表現する力が育まれました。

身体活動の増加：プロジェクターを使ったダンスの映像を見ながら、子どもたちは楽しく身体を動かす活動に参加でき、運動不足の解消にも役立ちました。

② 保育園全体への影響

保護者とのコミュニケーション：懇談会のときに園で取り組んでいる活動の様子をプロジェクターで保護者に共有することで、保護者とのコミュニケーションが円滑になり、信頼関係が深まりました。

環境の充実：デジタルツールを活用することで、保育園の環境がさらに充実し、子どもたちにとって楽しい学びの場となりました。

4. 今後の課題と展望

プロジェクターを導入したことで多くの利点がありましたが、今後の活動において注意すべき点もあります。

それは、保育者にとって、プロジェクターを使ったコンテンツ作成や操作に慣れるまで、時間と労力がかかることがあることです。また、長時間の視聴は幼児の集中力を低下させる可能性があるため、適切な時間配分が必要になります。何を見せるのか、年齢に適した内容なのか、学びの要素を含んでいるのか、短時間で集中できるものか、子どもたちが参加できる要素があるのか、などが大切なポイントになると考えます。

今回は、プロジェクターを導入したばかりということもあり、園内の活動が中心の利用になりましたが、この先、地域の活動においても利用できるように活動を模索していきたいと思います。

以上